



Dr 高橋のアレルギー相談室

ぜんそくの治療で重要なのは、発作のベースとなる慢性の気道炎症を鎮めることです。ぜんそくの薬物療法は、「気道の炎症をおさえる薬（抗炎症薬）」と「せまくなった気道をひろげて発作をおさえる薬（気管支拡張薬）」の大きく2つに分けられ、特に抗炎症薬が発作の予防薬として主役を演じます。

吸入ステロイド薬（副腎皮質ホルモン薬）は、最も強力な抗炎症作用を持ち、気道の過敏さをよく改善し、ぜんそく治療の基本薬といえます。飲み薬や注射のステロイド薬では、長期間使い続けると、「胃が痛い」「糖尿病」「骨粗しょう症（骨がもろくなる）」などの副作用が問題となります。一方、吸入ステロイド薬は、粉末または霧状のものを直接吸い込み気道に届かせることで、ごくわずかな薬の量で気管支に直接作用させることができるので、全身の副作用の心配がなく安心して使えます。最近になり、小児に対しても世界的に第1選択薬として推奨されるようになり、抗アレルギー薬も抗炎症薬に分類されますが、吸入ステロイド薬に比べ効果は弱いです。テオ

ぜんそくにいい薬の三 ぜんそくの薬物療法

フィリン薬にも弱い抗炎症作用があり、
症状を緩和する気管支拡張薬

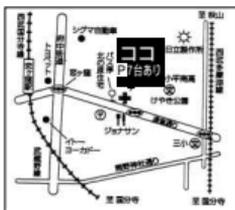
気管支拡張薬は、長時間作用が持続して日常の症状を抑えるものと、即効性で短時間作用して発作のときに緊急に用いるものと、大きく2つに分けられます。前者には、除放性テオフィリン薬（内服）、長時間作用性 刺激薬（吸入、貼り薬、内服）があります。後者の「発作止め」の代表は、短時間作用性 刺激薬の吸入薬です。スプレー状の薬を吸入することで発作を鎮められますが、抗炎症薬を使わずにこればかりに頼っていると、重度の発作に移行して手遅れとなりうるので注意しましょう。

医学博士 高橋 寿保

高橋内科クリニック（内科・呼吸器科・アレルギー科）

東京都国分寺市東恋ヶ座6-2-6 チサカ第1ビル1階

TEL: 042-322-7676 FAX: 042-322-7686



診療時間 AM 9:00 ~ 12:30 PM 3:00 ~ 6:00
休診日 木曜午後・土曜午後・日曜祝日
小平市基本健康診査も受けられます。